

平成25年度技術士試験の概要について

技術士試験については、科学技術・学術審議会技術士分科会（第20回）において、技術士制度の諸課題の検討を行うため制度検討特別委員会を同分科会のもとに設置し、また、特定の事項を機動的に検討するために同特別委員会のもとに作業部会を設置し、それぞれ試験制度等の諸課題について検討が行われてきました。

検討の結果、制度検討特別委員会は、技術士制度の更なる普及・拡大を図るために試験制度を見直すことが適当であるとする「技術士試験の見直し」を取りまとめ、これを技術士分科会（第22回）に報告し、了承されました。

技術士試験の見直しについては、昨年8月から9月にかけてのパブリックコメント（意見公募手続き）の後、一部修正され、12月25日の技術士分科会（第25回）において、平成25年度の技術士試験実施大綱等として了承され、平成25年度の試験から実施することが決定されました。

平成25年度技術士試験の概要については、技術士分科会等の資料等に基づき、下記のとおり取りまとめましたので、御参考にしていただければと思います。

1. 改正後の試験について

別紙1の改正後を参照して下さい。

2. 技術士第二次試験の内容について

別紙2を参照して下さい。

3. 業務経歴票の様式

別紙3を参照して下さい。

4. 技術士試験実施日程

	時期	事項
技術士第二次試験	<u>平成 25 年</u>	
	3/1	官報公告（第二次試験の施行）
	4/10～5/8	受験申込書 受付 （4/1 受験申込書配布開始）
	7 月上旬	官報公告（試験会場の名称・所在地）
	<u>8/3</u>	筆記試験 * 総合技術監理部門の必須科目
	<u>8/4</u>	筆記試験 * 総合技術監理部門以外の技術部門 * 総合技術監理部門の選択科目
	10 月下旬	筆記試験合格発表
	11 月～ 平成 26 年 1 月	口頭試験 （試験地；東京） ⇒ 期間中、指定の 1 日
<u>平成 26 年</u>		
3 月上旬	口頭試験合格発表	
技術士第一次試験	<u>平成 25 年</u>	
	3/1	官報公告（第一次試験の施行）
	6/10～7/1	受験申込書 受付 （6/3 受験申込書配布開始）
	9 月上旬	官報公告（試験会場の名称・所在地）
	<u>10/14</u>	筆記試験
12 月中旬	合格発表	

技術士第一次試験新旧対照表

試験科目	現 行				改正後（平成 25 年度～）			
	問題の種類	試験方法 (択一式)	試験 時間	配点	問題の種類	試験方法 (択一式)	試験 時間	配点
基礎科目	科学技術全般にわたる基礎知識を問う問題 1. 設計・計画に関するもの〔設計理論、システム設計等〕 2. 情報・論理に関するもの〔アルゴリズム、情報ネットワーク等〕 3. 解析に関するもの〔力学、電磁気学等〕 4. 材料・化学・バイオに関するもの〔材料特性、バイオテクノロジー等〕 5. 技術関連〔環境、エネルギー、品質管理、技術史等〕	出題は左記 5 分野各 5 問計 25 問出題 解答は左記 5 分野各 3 問計 15 問解答	1 時間	15 点	科学技術全般にわたる基礎知識を問う問題 1. 設計・計画に関するもの〔設計理論、システム設計、 <u>品質管理</u> 等〕 2. 情報・論理に関するもの〔アルゴリズム、情報ネットワーク等〕 3. 解析に関するもの〔力学、電磁気学等〕 4. 材料・化学・バイオに関するもの〔材料特性、バイオテクノロジー等〕 5. <u>環境・エネルギー・技術に関するもの</u> 〔環境、エネルギー、技術史等〕	出題は左記 5 分野各 6 問計 30 問出題 解答は左記 5 分野各 3 問計 15 問解答	1 時間	15 点
共通科目	技術士補として必要な共通の基礎知識を問う問題 (理科系統の学士の学位を有する者等は免除)	5 科目 (数学、物理学、化学、生物学、地学)のうち 2 科目選択 1 科目 20 問出題 全問解答	2 時間	20 点×2 科目	<u>廃止（基礎科目に統合）</u>			
適性科目	技術士法第四章の規定の遵守に関する適性を問う問題	15 問出題 全問解答	1 時間	15 点	技術士法第四章の規定の遵守に関する適性を問う問題	15 問出題 全問解答	1 時間	15 点
専門科目	当該技術部門に係る基礎知識及び専門知識を問う問題	35 問出題 25 問解答	2 時間	50 点	当該技術部門に係る基礎知識及び専門知識を問う問題	35 問出題 25 問解答	2 時間	50 点

※JABEE 認定学士課程は免除

※JABEE 認定学士課程に加えて JABEE 認定修士課程も免除

技術士第二次試験新旧対照表

<筆記試験>
(総合技術監理部門を除く技術部門)

現 行 (～平成 24 年度)					改正後 (平成 25 年度～)			
試験科目	問題の種類	試験方法	試験時間	配点	問題の種類	試験方法	試験時間	配点
必須科目	「技術部門」全般にわたる論理的考察力と課題解決能力	記述式 600 字詰用紙 3 枚以内	2 時間 30 分	50 点	「技術部門」全般にわたる専門知識	択一式 20 問出題 15 問解答	1 時間 30 分	30 点
選択科目	「選択科目」に関する専門知識と応用能力	記述式 600 字詰用紙 6 枚以内	3 時間 30 分	50 点	「選択科目」に関する専門知識及び応用能力	記述式 600 字詰用紙 4 枚以内	2 時間	80 点 (40 点)
選択科目 (新設)					「選択科目」に関する課題解決能力	記述式 600 字詰用紙 3 枚以内	2 時間	
筆記試験合格者	技術的体験論文の提出				<p style="text-align: center;">廃止</p> <p>・受験申込み時に提出する業務経歴票を見直し</p>			

※択一式試験の成績が合否決定基準に満たない者については、記述式試験の採点を行わない(平成 27 年度試験から)。

(総合技術監理部門)

現 行 (～平成 24 年度)					改正後 (平成 25 年度～)			
試験科目	問題の種類	試験方法	試験時間	配点	問題の種類	試験方法	試験時間	配点
必須科目	「総合技術監理部門」に関する課題解決能力及び応用能力	択一式 40 問出題 全問解答	2 時間	50 点	「総合技術監理部門」に関する課題解決能力及び応用能力	択一式 40 問出題 全問解答	2 時間	50 点
		記述式 600 字詰用紙 5 枚以内	3 時間 30 分	50 点		記述式 600 字詰用紙 5 枚以内	3 時間 30 分	50 点
筆記試験合格者	技術的体験論文の提出				<p style="text-align: center;">廃止</p> <p>・受験申込み時に提出する業務経歴票を見直し</p>			

<口頭試験>
(総合技術監理部門を除く技術部門)

現 行 (～平成 24 年度)			改正後 (平成 25 年度～)		
試問事項	配点	試験時間	試問事項	配点	試験時間
I. 受験者の技術的体験を中心とする経歴の内容と応用能力 ・技術的体験論文と業務経歴により試問		4 5 分	I. 受験者の技術的体験を中心とする経歴の内容及び応用能力 ・筆記試験における答案(課題解決能力を問うもの)と業務経歴により試問		2 0 分 ・10 分程度延長可
①「経歴及び応用能力」	40 点		①「経歴及び応用能力」	60 点	
II. 必須科目及び選択科目に関する技術士として必要な専門知識及び見識					
②「体系的専門知識」	20 点				
③「技術に対する見識」	20 点				
III. 技術士としての適格性及び一般的知識			II. 技術士としての適格性及び一般的知識		
④「技術者倫理」	10 点		②「技術者倫理」	20 点	
⑤「技術士制度の認識その他」	10 点		③「技術士制度の認識その他」	20 点	

(総合技術監理部門・必須科目)

現 行 (～平成 24 年度)			改正後 (平成 25 年度～)		
試問事項	配点	試験時間	試問事項	配点	試験時間
I. 受験者の技術的体験を中心とする経歴の内容と応用能力 ・技術的体験論文と業務経歴により試問		3 0 分	I. 総合技術監理部門の必須科目に関する技術士として必要な専門知識及び応用能力 ・筆記試験における答案と業務経歴により試問		2 0 分 ・10 分程度延長可
①「経歴及び応用能力」	40 点		①「体系的専門知識」	40 点	
II. 必須科目に関する技術士として必要な専門知識及び見識			②「経歴及び応用能力」	60 点	
②「体系的専門知識」	20 点				
③「技術に対する見識」	20 点				
III. 技術士としての適格性及び一般的知識					
④「技術者倫理」	10 点				
⑤「技術士制度の認識その他」	10 点				

平成25年度技術士第二次試験の内容について

試験科目	問題の種類		概念	内容
必須科目	「技術部門」全般にわたる <u>専門知識</u>	専門知識	○「技術部門」において不可欠な技術、業務遂行に際して必要な社会制度等に関する専門的な知識	・「技術部門」における不可欠な技術、社会的に重要なキーワード、業務における関連法規・制度等に対する専門的知識を問う。
選択科目	「選択科目」に関する <u>専門知識及び応用能力</u>	専門知識	○「選択科目」で対象とする技術分野全般にわたる専門的な知識	・「選択科目」における重要キーワードや新技術等に対する専門的知識を問う。
		応用能力	○ これまでに習得した専門的知識や経験等に基づいて、与えられた条件に合わせて正しく問題点を認識し、必要な分析を行ない、適切な業務プロセスや留意すべき内容を説明できる能力	・「選択科目」に係る業務に関し、与えられた条件に合わせて、専門的知識や実務経験に基づいて業務遂行手順が説明でき、業務上で留意すべき点や工夫を要する点等についての認識があるかを問う内容とする。
選択科目 (新設)	「選択科目」に関する <u>課題解決能力</u>	課題解決能力	○ 社会的なニーズや技術の進歩に伴い、最近注目されている変化や新たに直面する可能性のある課題に対する認識を持っており、多様な視点から検討を行い、論理的かつ合理的に解決策を策定できる能力	・「選択科目」に係る社会的な変化・技術に係る最新の状況や「選択科目」に共通する普遍的な問題を対象とし、これに対する課題等の抽出を行わせ、多様な視点からの分析によって実現可能な解決策の提示が行えるか等を問う内容とする。

氏 名 ×× ××

※ 整理番号

業務経歴票 [証明書]

大学院における研究経歴／勤務先における業務経歴

	大学院名	課程（専攻まで）		研究内容	在学期間	
					年・月～年・月	年月数
	△△△大学大学院	□□研究科修士課程 ××××専攻		○○○○○○の研究	平成**年**月 ～平成**年**月	XX XX
詳細	勤務先 (部課まで)	所在地 (市区町村まで)	地位・ 職名	業務内容	従事期間	
					年・月～年・月	年月数
	○○○○(株) ××事業部△△課	東京都 港区	課長	△△△△△△に関する調査、計画、設計	平成**年**月 ～平成**年**月	XX XX
○	○○○○(株) ××事業部	東京都 港区	次長	△△△△△△に関する調査、計画、設計	平成**年**月 ～平成**年**月	XX XX
	○○○○(株) ××事業部	東京都 港区	部長	△△△△△△に関する基本設計、管理	平成**年**月 ～平成**年**月	XX XX
※業務経歴の中から、下記「業務内容の詳細」に記入するもの1つを選び、「詳細」欄に○を付して下さい。					合計	XX XX
上記のとおり相違ないことを証明する。					平成**年 **月 **日	
事務所名 ○○○○株式会社						
証明者役職 代表取締役社長						
証明者氏名 ○○ ○○					印	

業務内容の詳細

当該業務での立場、役割、成果等

※ 上記業務経歴の詳細欄に○を付したものについて、
業務内容の詳細（当該業務での立場、役割、成果等）を記入。

形式

- ① 原則ワープロで作成するものとするが、手書きで作成しても良い。
- ② 書式は、720字以内（図表は不可）としワープロで作成する場合、48文字×15行、文字の大きさは、原則10.5ポイントとすること。